

1冊の本との出会いから ～読書のすすめ～

1冊の本とノートがあれば、様々な学習が生まれます。

- ① **本を読む。**→読み終わったら、今度は、同じ作者の本を読む、同じシリーズの本を読む、関係のある本を読むなど、さらに読書を広げることができます。たとえば、「スイミー」を読んだ子が同じ作者の「フレデリック」を読むとか、「織田信長」の伝記を読んだ子が、本の中に出てきた「豊臣秀吉」の伝記を読んでもみるなどです。興味関心が次々とふくらんでいきます。ノートには読んだ本の題名と作者を書いておきましょう。
- ② **声に出して読む。**→いわゆる「音読」です。目と耳を使うことで、より良く内容をつかむことができます。良い文の持つひびきやリズムにも慣れ親しむことができます。これは、自分が文を書く時や話すときのひびきやリズムにも生かすことができます。ノートには、本の題名とうまく読めたかを◎○△で書いておきましょう。
- ③ **文を視写する。**→文を写し書きすることで、じっくり読むことに繋がり、言葉を習得することができます。丸々1冊でなくてよいので、1日1ページとか、気に入った場面を視写するなど、自由に取り組めます。字を丁寧に書くことにもつながります。
- ④ **あらすじを書く。**→読んだ本の内容をまとめる力、全体を把握する力がつきます。要旨をつかんで、分かりやすく説明する力にもつながります。
- ⑤ **読んだ感想を書く。**→いわゆる「感想文」です。初めて知ったこと、面白かったこと、深く心に残ったことなど、ノートに自由に書いてみてください。読んだ本から学び、自分の意見を持てるようになります。
- ⑥ **本の紹介文を書く。**→読んで楽しかった本をお友達に紹介するつもりで文を書いてみます。相手意識をもって書くことで、プレゼンテーション能力にもつながります。ぜひ読んでみたくなるような魅力的な表現をしてみてください。

このように、1冊の本から、様々な学習ができます。家庭で過ごす時間の多い今だからこそ、取り組んでみてください。